

研究主題 児童生徒が学びを実感できる授業づくり
～学ぶ姿に着目した授業研究を通して～

1 主題の捉え

○学びを実感できる授業

児童生徒が本時の学習に興味や関心をもち、見通しを持って粘り強く取り組むことで「できた!」「分かった!」という成就感や達成感が得られる授業。学んだことを相互に関連付けて「これか!」とより深く理解したり、学習を振り返って「次はもっと!」と次につなげたりする授業。

○学ぶ姿に着目した授業研究

児童生徒の視点に立ち、授業を評価・改善できるよう、「児童生徒の学ぶ姿」に着目し、評価・改善を図る授業研究。

2 研究主題設定理由

(1) 本校の学校教育目標

知的障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、それぞれの社会参加と自立を目指す ➡ 一人一人の教育的ニーズの把握とそれぞれの社会参加と自立に必要な力を育む授業づくり

(2) 昨年度までの研究の成果と課題 「合わせた指導の基本を徹底した授業づくり」 2年計画

成 果	課 題
<p>○「自ら学び、学びをつなげる」力の育成を目指した学習過程の改善 課題意識を高める導入の検討 →「自ら学び、学びをつなげる力」=自分の学びを実感し、自分なりの課題解決方法を身に付けるために必要な力(今後も継続して育成)</p> <p>○単元計画書の活用による単元の改善 単元検討会により、目標や評価規準を授業者間で共有(様式に関しては要検討)</p>	<p>●根拠のある授業づくり 児童生徒・保護者の願い、発達課題、育みたい力、社会的要請の明確化、自立活動の視点から課題を整理、指導内容を検討 →「活動ありき」からの脱却</p> <p>●児童生徒が学びを実感できる授業づくり 自らの取組と学びを自己評価する力の育成 →導入・展開・まとめ →児童生徒：学びの実感と次時への課題意識 →教師：児童生徒の学びの評価</p>
授業研究会の持ち方	
<p>○単元計画案に組み込むことで、成果と課題を共有し、授業改善及び単元の改善につなげる</p>	<p>●授業研の協議が支援方法や手立てに焦点化しがち ●授業があるため参観者が少ない</p>

(3) 新学習指導要領

<新学習指導要領>

「学習する側の子供の視点に立つ」という基本理念のもと、「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力を整理すること

「教員が何を教えるか」「子供が何を知っているか」→「何ができるようになるか」

総則：第2章教育課程の編成及び実施 第4節教育課程の実施と学習評価 3 学習評価の充実より

児童生徒のよい点や可能性、進捗の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。

中教審答申より

：「子供たちの学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要」

3 研究仮説

教育的ニーズを基に、育てたい資質・能力を明確にした指導計画を立案し、本時のねらいを達成するために学習過程を工夫した授業を実践し、児童生徒の学ぶ姿に着目した授業研究を行い、改善を重ねることで、児童生徒一人一人がより学びを実感できる授業づくりができるだろう。

4 研究内容

児童生徒が学びを実感できる授業づくり

根拠のある授業づくり

- ①学校教育目標、教育的ニーズを基に、育てたい資質・能力を明確にした指導計画
- ②単元・題材のねらいを明確にした単元・題材計画とつながりのある単元・題材配列
- ③本時のねらいを達成するための学習過程（評価場面等）の工夫

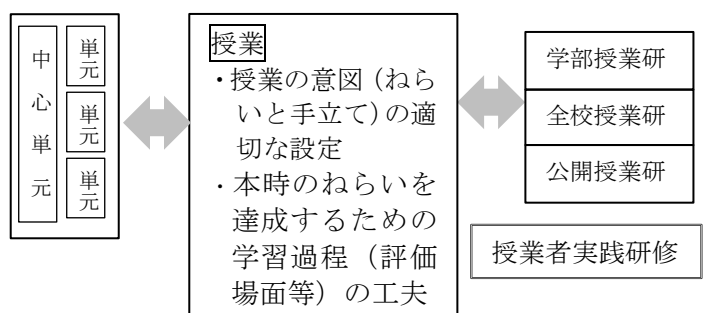
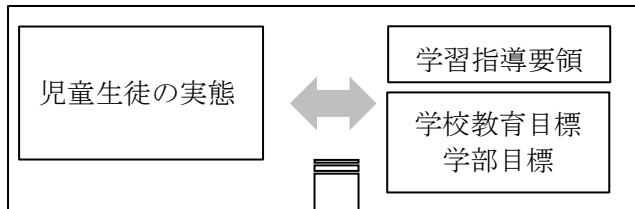
学ぶ姿に着目した授業研究

- 事前授業検討
- 授業提示
- 授業協議

<計画>

<実践>

<評価>



①学校教育目標、教育的ニーズを基に、育てたい資質・能力を明確にした指導計画

個別の指導計画 ↔ 年間指導計画
個別化 (個別の指導計画 → 年間指導計画)
集団化 (年間指導計画 → 個別の指導計画)

②単元・題材のねらいを明確にした単元・題材計画とつながりのある単元・題材配置

明確 → 単元・題材計画 ← 配列

- ・中心単元検討、単元・題材計画案を基に検討
- ・各教科等の年間で行われる単元・題材の関連づけ、配列

事前検討シート・学習指導案

- ・事前検討シート、学習指導案をもとに、育成を目指す資質・能力と学習内容、学習活動の整理

③本時のねらいを達成するための学習過程（評価場面等）の工夫

導入	展開	まとめ
・本時の課題（解決すべき事柄）に対する自分の考えをもつ	・本時の課題に取り組む	・本時の課題の答えが分かる ・自分の考えの変化について気づき、次時の学習につなげる (自己評価・他者評価・相互評価)

授業研究の基本的な進め方

事前授業検討
 参加者：授業者＋参観者
 ねらい：授業の意図（ねらいと手立て）の検討と共有
 （対象児童生徒の期待する姿の設定）
 方法：事前検討シートの記述、シミュレーション

授業提示
 ・授業の意図に即し、対象児童生徒の学ぶ姿＝事実に着目し、参観
 ピンクの付箋紙
 ・期待する姿をもとに、児童生徒の行動や会話など、学ぶ姿を事実として記述
 青色の付箋紙
 ・児童生徒の姿から、なぜ、期待通り、もしくは期待とは異なることが生じているかについて考察したことや解釈したことなどを記述
 黄色の付箋紙
 ・その他、気付いたことなどをメモ

授業協議
 ねらい：学ぶ姿について解釈を重ね合い、多角的に捉え直し、改善につなぐ
 [協議1] 学ぶ姿を根拠に参観者が解釈を重ねる
 [協議2] 支援の工夫・改善点の明確化
 [振り返り]
 授業者：児童生徒の捉えについて、次時への改善点を含め、児童生徒の捉え方の変容など
 参観者：自分の授業へ生かす点について
 [指導助言]

<改善>